

# 家庭科研究部

## 1 研究主題

「ひと・もの・こと」とのつながりを大切にし、  
自らの生活を豊かに創造する子どもの育成

## 2 研究主題について

これからの社会を担う子どもたちには、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化、少子高齢化社会や持続可能な社会の構築など現代的な諸課題に対応し、自立的、主体的に生きる力が求められている。しかし、家庭生活や社会環境の変化による家庭や地域の教育機能の低下等、子どもたちを取り巻く環境には様々な問題が指摘されている。令和2年度に全面実施された学習指導要領では、子どもたちが今の自分の生活と将来の生活を見つめて多様な生活の見方や考え方を吟味し、新たな生活の在り方を創造できる力を育むことが求められている。そのため、家庭・地域と連携し、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るとともに、家庭生活を大切にできる心情を育み、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる家庭科教育の一層の充実が期待されている。未来を担う子どもたちには、よりよい生活への実践力を育むことが必要であり、その基礎を培う家庭生活は極めて重要である。

変化の大きい時代をたくましく生き抜くための基礎となる学力とは、未知の課題に対していかに問題解決を図れるかということに他ならない。「ひと・もの・こと」とのつながりを大切にすることは、子ども自身が社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を發揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と人生を切り拓く力を育むことにもなる。

こうした学びの源となるのは子どもの学びに向かう力であり、これを引き出すためには、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定できるよう、子どもたちの学びへの興味を高める必要がある。様々な問題に対して、状況に応じた最適な解決方法を探り出そうとする子どもの姿を目指し、家庭生活を大切にできる心情を育み、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度や豊かな人間性を育てたいと考える。

これらを踏まえ、今年度も家庭科の研究主題を『「ひと・もの・こと」とのつながりを大切にし、自らの生活を豊かに創造する子どもの育成』と設定した。

令和5年度には、第60回全国小学校家庭科教育研究会全国大会 神奈川大会の開催も予定されている。横浜市家庭科研究会も更に研究実践を積み重ねていきたい。

## 3 研究方法

- 研究主題に基づいた実技を伴った研修、授業研究会、講演会、実践提案等、具体的な事例を通して、指導及び支援の在り方、題材構成の工夫等、よりよい家庭科の授業について探る。
- 会員のニーズに応じた研究・講座を設定する。初めて家庭科の研究会に参加する方にも分かりやすい提案を行う。また、コロナ禍における指導の工夫についても発信する。
- 12月の一斉授業研は録画視聴で実施する。市内3校を会場とし、オンライン併用で行う。
- 4つの区の実践提案発表を11月と2月の2回に分けて担当区に発表していただく。
- 各区においては市研研究主題に基づき、各区の部員が話し合い、「研究の重点とする視点」を定め、1年間の研究の成果（区だより）をまとめていただく。

## 4 年間活動報告

日 程	場 所	内 容
4月21日(水)	花咲研修室	【総会】 【講演会】 中止

5月12日(水)	平沼小学校	【総会】 【提案】 令和3年度の家庭科学習について
6月16日(水)	平沼小学校	【講演会】 指導と評価の一体化 ～資質・能力の育成に資する授業づくりと学習評価のポイント～ 教職員育成課 主任指導主事 大平 はな
7月7日(水)	平沼小学校	【学習研究部提案】 令和3年度 研究主題・研究計画について 【実技研修】 はじめての家庭科① ICTを活用した授業づくり I～みんなで考える iPad 活用法～
9月8日(水)	ZOOM	【研修】 はじめての家庭科② ICTを活用した授業づくり II ～ ロイロノート、Keynote を使った実践提案と実技研修 ～
10月6日(水)	平沼小学校	中 止
11月10日(水)	平沼小学校	【2区実践提案発表①】 港北区 保土ヶ谷区
12月1日(水)	東小学校 上飯田小学校 末吉小学校	【授業研究会】 横浜市一斉授業研究会 Sewing (ソーイング) 生活を豊かに 楽しくしよう!③ ～ 使いやすいふくろ作り ～
1月12日(水)	ZOOM	【講演会】 第2次教育研究大会 ～資質・能力を育む家庭科の授業づくりと評価～ 前文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 筒井 恭子 先生
2月9日(水)	ZOOM	【2区実践提案発表②】 中区 戸塚区
3月9日(水)	ZOOM	【調査部報告】 調査のまとめ 【実践提案】 問題解決的な学習の充実に向けて 「整理・整頓で快適に」

## 5 研究の成果と課題

### 【成果】

- 研究主題に基づき、問題解決的な学習に取り組む実践提案や実技研修、授業研究会を行い、具体的な事例を通して指導及び支援の在り方、題材構成の工夫等よりよい家庭科の授業づくりについて研究を深めることができた。
- 会員のニーズに応じた研究・講座を設定することで、初めて家庭科を指導する先生にも分かりやすい提案を行うことができた。さらに、コロナ禍における指導の工夫として、iPadの活用法に関する実技研修や、会員同士の情報交換を行ったり、制約のある中での実習・実験の進め方について情報発信したりすることができた。
- 第2次教育研究大会では、昨年度から実施されている3観点の評価や授業づくりについてご講演をいただき、令和5年度に開催を予定されている第60回全国小学校家庭科教育研究会全国大会神奈川大会に向けても、研究の方向性や内容を考え、深めることができた。
- 昨年度は行わなかったオンラインでの市研開催を実施し、様々な状況にあっても多くの先生方に参加していただくことができた。

### 【課題】

- 家庭科を指導する方の立場がさまざまであり、その方が必ずしも市研に参加すると限らず、市研からの発信が全体に伝わりにくいと感じることがある。市研での研究内容を伝える工夫は、今後も引き続き考える必要がある。
- iPad等の情報端末にある機能や、共有ドライブ等を活用することで、より多くの先生方と、瞬時に授業や教材の情報共有をすることができる。今後も快適に活用できるよう準備していきたい。